

DCの桜祭り

春になると、ワシントンDCのところどころ、そしてバージニア州、メリーランド州のあちらこちらで、桜が快活に咲きます。今年は通常より早めの3月終わりに満開になりました。

この時期には、道路を歩きながら、突然現れたせっかちな妖精みたいに魅力に富む桜の木を突然発見するのは困難ではありません。ワシントンDCの短い春の儂さの中で、白い光の大きな塊のようになった桜は、さりげなく支配権を振るっているのです。

ワシントンDC地域で桜が一番多いのはジェファーソン記念館のあるタイダルベースン（潮泊渠）の周りになります。その桜は、1912年に当時の東京市長がワシントンDCに贈呈したものです。

それを記念するために毎年、桜祭りが行われます。今年の開催日（4月9日）には、嵐のような強い雨によって花卉の多くが既に大地に散らされ、葉桜になりかけている桜しかありませんでした。それでも、今年は桜らしからぬ頑固な花卉が雨の滴によく耐えて、ワシントンに住む者は、淡い桃色がかった白色の素朴さを比較的長く楽しめました。

祭り自体はジェファーソン記念館からもう



少し北にあるホワイト・ハウスの隣りのペンシルベニア通りで開催されました。私は、嵐に青春を奪われた桜の木々を見過ごして、沸き上がるように人で混雑する桜祭りに参加しました。桜祭りは11時から18時まで行われ、私はちょうど空腹を感じる12時過ぎに到着しました。

雨が少し心配されましたが結局降らず、涼しい曇り空の下、会場となった道路は歩き難いくらい大勢の人であふれ、まるで来客みんなが一つの巨大な生命体になって大きく息を吸いこみ、膨張・収縮を繰り返しているようでした。

その生命体の両側に多数の日本関連の屋台が並んでいました。多くは、日本食か日本関連のグッズを売る店でした。また、いくつかステージが作られ、そこで日本関連のパフォーマンスが繰り広げられていました。今年特有の現象として、東日本大震災の被災者を援助するために寄付を募る人たちも多くいました。

祭り会場は、今年初めて完全にフェンスで囲まれた形式となりました。また、今年初めて入場料（一人5ドル）をとるようになりました。以前から来客が多すぎる傾向にあった



ため、有料化によって人数制限をかけることにしたそうです。初めて入場料をとるということで主催者側は来客数に不安を持っていたようですが、それは杞憂に終わったようです。

実は、今年の桜祭りは直前になって開催が危ぶまれたのです。震災とか不況とかが原因ではありません。アメリカ人として恥ずかしいですが、2011会計年度の予算案をまとめる協議がうまく行かず、ちょうど祭り前日の真夜中までに共和党と民主党が協力してまとめない場合、連邦政府の機能が停止してしまいます。そうなると、桜祭り用の許可証が無効になり、桜祭りとしてペンシルベニア通りを利用できなくなって桜祭りはすべて中止になってしまうのです。

しかし、幸いなことに、予算案は完全にはまとめられなかったのですが、最終期限直前に一時的な合意が成立し、ペンシルベニア通りを桜祭りが利用できたのでした。“間一髪”といったところでした。

ケチな争いを続けた連邦政府による邪魔から逃れた桜祭りは、その後は順調にいったようです。

ステージでは、日本から来たSpirit+NoiseのバンドやAUNの太鼓兄弟、ニューヨークから来たReni MimuraさんのJ-Popとアニメキャラを使ったダンスグループなどが登場しました。別のステージでは、居合道の型を演

じる皆さんが、武道の静寂の力を観客に教えていました。

和食の屋台に設けられた長いテーブルで、旨そうな牛丼とタイ焼きを食べている一群の若者に目を惹かれました。彼らは、明らかに日本のアニメファンであり、奇抜なコスチュームを身にまとっていました。日本に興味を持つアメリカ人の多くは、アニメ・マニアのようです。

人混みに吸引されるように歩いていくと、ビアガーデンに辿りつきました。そこで数人の知人に会い、しばらくを、志賀直哉の小説に描写されているような、のんびりとした放蕩の時間として過ごしました。スポンサーのキリンとハクツルが生ビールと日本酒を売っていました。知り合いの一人が羽織・袴姿で現れ、周囲から「龍馬ですか？」と何回もふざけた調子で訊かれていました。確かに、彼は福山雅治に似ているところがあったかもしれません。

私は結局、祭りが終わるまで会場にいました。甚だしい人数のざわめきに身をまかせながら、いつの間にか時間が過ぎていく、そんな滑らかな一日でした。会場で行われていた寄付による災害救援活動ももちろんですが、桜祭りの温もりや愉快さが日本に届いて共鳴するように願っています。



筆者紹介

ネルソン・グラム

U.S. Attorney (Virginia Bar), Global IP Counselors, LLP 所属。

1981年米国バージニア州生まれ。ジョージ・ワシントン大学 (DC) で国際関係論を学びながら、ウルグアイ大使館でインターン。卒業後、2003年渡日、香川県三野町 (現在三豊市) の国際交流協会にて一年勤務。うどんが大好物となる。帰国後、ジョージ・メーソン大学ロースクール卒。2008年8月からGlobal IP Counselors, LLPに弁護士として勤務。趣味は読書、運動。好きな言葉は「鳴かぬ鶯が身を焦がす」。